

第4回 江の川河川整備懇談会 (議事要旨)

開催日時：平成27年10月2日（金） 13：30～15：30

場 所：安芸高田市民文化センター（クリスタルアージュ） 4階 小ホール

出席委員： 岩本 浩史（島根県立大学総合政策学部准教授）
裏戸 勉（松江工業高等専門学校名誉教授）
河原 能久（広島大学大学院工学研究院教授）
関 太郎（広島大学名誉教授）
中林 光生（広島女学院大学名誉教授）
中村 幹雄（元島根県内水面水産試験場長）
長束 勇（島根大学生物資源科学部教授）
林 秀司（島根県立大学総合政策部教授）
藤原 眞砂（島根県立大学総合政策学部教授）
山崎 禅雄（日笠寺住職（元桜江町教育委員長））

10名出席

議事

1. 江の川水系河川整備計画の策定スケジュールについて

2. 整備計画（原案）に関する意見集約及び対応状況について

(1) 河川整備計画（原案）に関する意見集約結果

- ・事務局より河川整備計画（原案）に関する意見集約結果について説明

(2) 河川整備計画（原案）に関する意見とりまとめ

- ・事務局より河川整備計画（原案）に関する意見とりまとめについて説明

(3) （原案）と（案）の対比

- ・事務局より（原案）と（案）の対比について説明

【委員】

- ・「河川環境の改善を目的に適切な河道攪乱の確保等について調査及び検討を実施します」とあるが、河道攪乱について、今後どのような形で対応するのか。

【事務局】

- ・土師ダムの洪水調節によって、下流で確保できる水の量は限られている。その限られた水の量の中で、河道の攪乱が起こるような形状を検討し、対策していきたいと考えている。

【委員】

- ・本会場の吉田近辺でレキ河原の形成と、土師ダムの放流との関連を調査していたが、どのような結果となったか。

【事務局】

- ・河道攪乱の洪水の頻度に比べて、植物の成長速度が非常に速い。フラッシュ放流だけでは十分にその攪乱を確保できないという課題が残っている。河道は安定しているが、礫河原について、少し課題が残っている。河道の形状について、形状あるいは瀬の再生に焦点を当てた検討を進めたいと考えている。

【委員】

- ・95ページに「川らしい環境」がある。この表現が曖昧であるため、もう少し良い表現はないのか。

【委員】

- ・多自然川づくりや自然再生法における川づくりの理念は素晴らしいと思う。そのような理念を最初に住民に話しておく、川づくりに対する基本姿勢がはっきりする。

【座長】

- ・河川整備計画本文にどう表現するのかを考えているが、理念的なものについて章を設けて記載するのは難しいのでは。

【事務局】

- ・国土交通省における全ての事業において、「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針」というものが別に定められている。その中で、事業をする際には、「重点検討事業」「検討対象外事業」「一般検討事業」と、三つに区分をしながら、どのように景観を保全していくか、客観的に理論的に景観に対する評価を行うための手順と体制を定めた方針がある。それに従い、事業を実施する度に評価し、保全等をやっていくことになる。

【座長】

- ・「住民が見られてもわかるように」できるだけ本文に反映させたいという趣旨だと思う。したがって、川らしいという言葉が、92ページの内容に関係しているとの表現にすれば良いと思う。
- ・時間に限りがあるので、事務局と相談し、必要に応じて確認する。

【座長】

- ・表5.1.1整備手順に記載されている「以上の影響範囲」ではわかりにくい。

【事務局】

- ・「以上」というのは図の上方を指しており、「近年洪水（平成以降）による家屋浸水箇所」の整備による影響という表現にしている。適切な表に修正します。

【座長】

- ・29ページの「浜原ダムや高暮ダム等を利用し、計28ヶ所の発電所」との記載があるが、下表には「発電用水24件」となっており異なっている。

【事務局】

- ・手元に数字がないので、委員会後に確認し報告する。

【委員】

- ・104ページの「生活排水の浄化ために」の後のつながりがわかりにくい。

【座長】

- ・事務局の方で適切に修正する。

3. 整備計画（案）における事業評価について

(1) 江の川水系河川整備計画における費用便益分析

- ・事務局より江の川水系河川整備計画における費用便益分析について説明

【委員】

- ・事業完了後の評価期間（50年間）の維持管理費は、50年間ずっと同じなのか。

【事務局】

- ・樋門では、30年間に一度のゲート更新、毎年掛かる点検費を積み上げて、30年で割り年平均を算出している。ライフサイクルコストについて、長寿命化を考慮し、通常30年でゲート更新するところ、途中で補修することで、56年でゲートを更新することを考え、維持管理費を算出している。
- ・定期的なメンテナンスがある年の維持費は、図に示すように平均値にならない。5年後に樋門を造るとメンテナンスが30年後に来るので、スタートからすると35年目

のところ突出するように描くのが正しいと思うが、模式図にあらわすのは繁雑になるので、平均値を用いている。

【座長】

- ・本事業を実施するということが、妥当であると判断する。
事業評価の議事については、懇談会で審議した結果を事務局が、事業評価監視委員会の方に報告するとなっている。18ページに記載したとおりで、賛同頂いたとさせていただきます。

4. 整備計画策定後における整備進捗点検について（情報提供）

- ・事務局より整備計画策定後における整備進捗点検について情報提供

【座長】

- ・河川整備計画策定後も3年毎に点検し、その時代に合わせ見直して行くという情報提供を頂いた。

5. まとめ

【座長】

- ・本懇談会の議論を踏まえ事務局と座長の方でとりまとめ、委員の意見を伺った上で江の川水系河川整備計画（案）を確定させたいと思う。

【事務局】

- ・本懇談会の議論は江の川水系河川整備計画（案）に至急反映する。
- ・事業評価の審議結果は、本計画が策定された後、江の川直轄河川改修事業として中国地方整備局事業評価監視委員会へ報告する。

以上